

原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追及、特集号
第百二十二号

原告団レポート

CO患者——
塚本 美治 さん

はずむ心で

三川鉱の、常一労働者の探査仕
練工だった塚本美治さんは、す
にその日の勤務を無事に終え、人
車に乗って坑口に向かい昇坑中だ
った。

その日——昭和三十八年十一月
九日、与えられた仕事は、その頃
二十一日に展開していた切羽の壁
裏の、たしか二段目の脚かえな
どだったと記憶しているが、その
ときの彼にはそんなことはどうで

流れた計画

獲物は、フナやコイ、ボラ、ス
ズキ、ウナギ、それにタイワンド
ジョウの俗名で呼ばれる雷魚など
だったが、聞けばそんな獲物を、
わずかに三、四人でひと晩のうちに
何十貫もあげたことさえあるとい
う。

その日は、土曜日の夜だった。た
え、その夜一睡もしなくてさえ明

被災後結婚

塚本さんの住まいは、大牟田市
藤田町八〇一番地。昭和五年七月
た。何とかかんといいながらひ

男もの靴下

塚本さんは、障害等級七級の保
障を得ているが、典型的なCO患
者の部にはいる。

四十六年三月に行われた主治医
(大牟田市評論病院)の診断書に
は、次のようなことが記されてい
る。

竹ミス造り

塚本さんは、思えば昭和二十年
の十一月二十八日わずか十六歳と
いう少年の身で三川鉱に入社した
のだった。そして三池労働組の組
員仲間とともに、輝く三池の闘い
の歴史を刻みつけてきたのであ
る。

子どもと「番組」争い

酒にまぎらす傷痕の痛み

小舟もかがり網も泣くか

写真上は、さつきの盆裁の手
入れ中の塚本さん。何とでも
本人も数えきれないほどの
ね。妻の和枝さん、まねば
出せばカンシャク玉が……。

まだ元気だったかつての日、魚とりが好きだった塚本さん
の思い出写真。昭和32年11月29日、新開でかがり
網によるこの大漁。ひと晩に何十貫もあげたこともある。今は、遠い昔の思い出として残るばかり。

悲しい運命

「それにしても、相手はCO患
者だということも十分知って、お
嫁にこられたんでしょうが、よく
決心ができましたね」

同家をたずねた折、ついつい
聞いてしまったものだが、そんな
問いに対して、和枝さんは笑って
答えた。

番組争いも

「もちろん、ちゃんとそのこと
は聞かされてきましたけど、CO
中毒症というものが、まさかこれ
ほど、まわりの者まで苦しめる
ほどのものだとは、思いもしませ
ない」

